

## 36年毎のオリンピック

平成 20 年(2008)5 月 25 日 (日)

「地球に謙虚に」 運動代表

仲津 英治

西暦 2008 年の今日、中国が世界の耳目を集めています。その焦点の一つが北京オリンピックです。近代オリンピックは政治抜きでは語れないと言われていました。

私には自分の体験から 36 年毎のオリンピックと言う流れで捉える考えが浮かんで参りました。エネルギー・資源問題、食料問題、環境問題にそれぞれ事情が異なるものの、実に強くつながっているからです。具体的には 1936 年のベルリンオリンピック、1972 年のミュンヘンオリンピックそして 2008 年の北京オリンピックという 36 年毎に見る流れなのです。

### 1. 1936 ベルリンオリンピック

1936 年ドイツで冬季と夏季のオリンピックが開催されました。開催都市はガルミッシュパルテンキルヒェンとベルリンです。

ヒトラー率いるナチス（ドイツ国家社会主義労働者党）が、民主的に政権の座についてから、ドイツの象徴アウトバーン（自動車専用高速道）の建設を開始し、大衆車フォルクスワーゲンが製造され、普及するようになりました。鉄道も大幅に拡充整備されています。経済拡大の結果 600 万人の失業者が救済され、ヒトラーの国民的人気は沸騰するように高まったと言います。大学時代、政治学の先生が、「ヒトラーは決して、無理に国民を引っ張ったのではない。大衆に大いに受け入れられ、そして巧みに大衆をリードして行った」と講義で言われたことが今も印象に残っています。1972 年西ドイツに留学したとき、親しくなったドイツ人識者の話からそのことを確認できました。

### オリンピック史上最初の聖火リレー

1936 年 2 月のガルミッシュパルテンキルヒェン冬季オリンピックの後、同年 8 月のベルリンオリンピックで、ドイツは、オリンピック史上最初の聖火リレーというイベントをやったのけました。宣伝効果を高めることを目的に古代オリンピックの発祥地であるアテネのオリンピアで五輪の火を採火し、たいまつリレーで開会式のベルリン・メインスタジアムまで運んだのです。私がこのことを知ったのは、オリンピック記録映画史上いまだにこれ以上の作品はないと言われる不朽の名作を見たときでした。女性監督レニ・ライフェンシュタールによる民族の祭典（1938）& 美の祭典（1940）の 2 部作からなる記録映画『オリンピア』です。

聖火リレーのコースは、アテネのオリンピアを出発して、東欧を主に経由するコースでした。この聖火リレーは、ドイツのみならず、世界から賞賛され、今日まで続いています。

ベルリンオリンピックには 50 カ国も参加を得て大成功を収め、ナチス党政権のドイツ第三帝国の威信を高めました。ドイツのメダル数は金メダル 33 個を含む金銀銅 89 個で世界断トツだったのです。2 位のアメリカが金 24 個、メダル総数は 56 個でした。ドイツ人の愛国主義（ナショナリズム）は大いに高まりました。

### ユダヤ人迫害政策

キリスト教文化圏では少数派であるユダヤ教徒は、長く歴史的に差別されてきています。しかし欧州におけるユダヤ迫害の歴史は、住んで見てもすぐには中々判らないものでした。現実にはイギリス、フランスでもユダヤ人迫害があり、多くがドイツに逃れたとも伺います。しかし商才に長けたユダヤ人には平均的ドイツ人より収入が多い人が多く、ドイツ大衆の反感を買っていたと伺いました。ヒトラーはドイツ人の国民的人気を得るためにこの反ユダヤ感情を利用したのです。1972 年当時 27 歳であった私がドイツ留学してドイツ人と親しくなってから、このような歴史があったことを伺うことができました。

しかし冬季オリンピックとベルリンオリンピックを進めるナチス・ドイツは、この大会を開催したいがために、誘致と大会期間に限りユダヤ人に対する迫害政策を緩めた他、ヒトラー自身も、有色人種差別発言、特に黒人に対する差別発言を抑えるなど、国の政策を一時的に変更してまで大会を成功に導こうとしました。

## 第二次世界大戦

ナチス・ドイツは、ベルリンオリンピックの成功のあと、ひたすらドイツ第3帝国の拡大に努めます。1938年、チェコスロヴァキアのズデーテン地方にドイツ人居住者が多かったことから、ドイツへの割譲を求めます。これが「余の最後の要求である」とヒトラーは言い、時の英国の首相チェンバレンは妥協し、宥和政策を行い、ミュンヘン協定が結ばれます。チェコスロヴァキアは解体されましたが、当時、チェンバレンが平和を維持したと、欧州で賞賛した人も多かったのです。もちろんチャーチル初め批判者はいましたが。

1939年9月1日ドイツ軍はポーランドに侵攻し、第2次世界大戦が始まりました。ヒトラーの本質をチェンバレンは読み切れなかったと歴史家は証言しています。ポーランドにはスターリン率いるソ連(ソビエト社会主義連邦 1991まで存続)も独ソ不可侵条約に基づき東側から侵攻しています。

## 当時のドイツのエネルギー事情、鉱物資源と食料事情

第2次世界大戦前、石炭は結構産出するもののドイツのエネルギーと鉱物資源はかなりソ連からの輸入が多かったようです。1000年王国となりうると豪語したヒトラー率いるドイツ第3帝国は、領土拡大に際し、資源地帯優先という作戦を取りました。軍用機、戦車、軍艦などは石油が無ければ動きません。ドイツは、宿敵ソ連と対立しているルーマニアから石油の無償提供を受けたりして、戦争を遂行したのです。

一方化学肥料の発達していない当時の社会では食料の生産は肥沃な土地をどれだけ確保しているかに依存しており、食料確保が人口の維持に直結し、ひいては国力の維持、民族国家の伸張力を左右すると信じられていたようです。1941年6月ソ連に攻め込んだドイツ軍の目指す先の一つはウクライナの穀倉地帯でした。

## 2 1972 ミュンヘンオリンピック

ベルリンオリンピックから36年後の1972年8月から9月にかけて、第2次大戦敗戦後平和国家に生まれ変わった西ドイツ(ドイツ連邦共和国)のミュンヘンで夏季オリンピックが開催されました、私は西ドイツのDAAD給費留学生として、オリンピックも楽しむことができましたが、同時に大変な惨劇も見聞することとなりました。オリンピック史上最悪の悲劇と言われるミュンヘンオリンピック事件が発生したのです。

### ミュンヘンオリンピック事件

1972年9月5日早朝、オリンピック会場内の選手村のイスラエル選手宿舎に、パレスチナゲリラ「黒い九月」のメンバー8名が乱入し、イスラエル選手団員2名を殺害し、残りの9名を人質にしたのです。同日夜の西ドイツ警察による人質救出作戦は失敗し、銃撃戦の末、人質9人全員とゲリラ5人、警官1人が死亡する大惨事となりました。

当時私は単身で、ミュンヘン東方郊外の景勝地ヒーム湖畔のプリーンという町にあるゲーテ協会に多くの外国人研修生とともにドイツ語研修を受けていました。研修生は多彩で、記憶している国名を数えますと、欧米から11カ国、アジアからは日本を含め7カ国、アフリカから2カ国、遠く中南米から4カ国、アラブからは3カ国でした。研修生の人種も様々ですが、一様に若かったですね。

事件当日、下宿のおばさんにオリンピック会場で銃撃戦があったと聞いて後、ゲーテ協会に来ますと、ドイツ人講師と研修生共々テレビに釘付けです。テレビニュースと研修生との会話そしてドイツ人講師の説明で事の次第を知りました。悲劇的な結末のあと、ドイツ人講師、各国からの研修生もゲ

リラ行為を肯定するものはいませんでした。反応は様々であったように思います。日本人として初めて欧州、イスラエル（ユダヤ人国家）、パレスチナそしてアラブ諸国の難しい関係を知った事件でした。翌日にイスラエル選手団の追悼式が行われ、オリンピックは34時間ぶりに再開されました。

ところが翌年、日本のみならず世界を揺るがす戦争と石油ショックが発生します。

### 第一次石油ショック

1973年10月6日に第四次中東戦争が勃発。これをうけてアラブ石油輸出国機構（OPEC）6カ国は、原油公示価格の21%引き上げ、原油生産の削減並びにイスラエル支援国への禁輸を発表し、さらに翌1974年1月より原油価格を2倍に引き上げると決定しました。アメリカと同盟関係にあった日本では、イスラエル支援国家とみなされる可能性が高く、急遽三木武夫副総理を中東諸国に派遣して日本の立場を説明して支援国家リストから外す様に交渉しました。油乞い外交と揶揄した新聞記事を記憶しています。

エネルギーの大半を石油に依存していた日本は、1バレル（159リッター）数ドルだった原油価格が数倍になったものですから、消費者物価指数は1974年に23%上昇し、戦後続いてきた高度経済成長が終焉を迎えています。トイレトペーパーや洗剤など、原油価格と直接関係のない物資の買占め騒動が起こっていることを、垣間見たニュースや、友人・家族からの手紙で知りました。

1974年春まで私と妻はドイツに滞在していました。一時期、アウトバーンで速度無制限から時速100キロ制限に、市内通行は、路面電車、バス、タクシーに限定されていたことがあったものの、ドイツ国内では人々は落ち着いて対応していたと記憶しています。

さて今世界中が原油価格の大幅上昇という大波を受けつつありますが、改めて1972年のミュンヘンオリンピック事件と1973年の第一次石油ショックは地下水脈で繋がっている事柄であったと認識を新たにしているところです。

## 3 2008 北京オリンピック

### チベット問題と聖火リレー

ミュンヘンオリンピックから36年、2008年8月に開催される北京オリンピックの年となりました。共産党率いる中国政府は、国を挙げてオリンピックを成功させ、世界に躍進する中国の姿を見せようとしているように思います。ナチスドイツが始めた聖火リレーも大々的に世界中で計画されていました。そこへ3月10日、チベット自治区ラサにあるデプン寺の僧侶による抗議デモが発生し、それが3月14日には大規模な暴動に発展しました。元々マルクス主義で宗教を認めない中国政府は鎮圧に乗り出し、多くの死傷者を出しました。チベット人には50年以上の前からの漢民族に対する鬱積した感情があり、また抗議デモの背景には中国人とチベット人の所得差も大いにあるようです。

チベット人民に深く尊敬されている聖職者に対する、国家による突然の暴力です。チベット人による抗議行動が中国各地に飛び火しました。しかし中国政府は外国報道陣を締め出し、徹底的に弾圧して鎮圧に成功したようです。

中国当局は、「僧侶などの抗議行動はチベット仏教の最高指導者であるダライ・ラマ一派による組織的行動だ」と非難し、自分たちの行為の正当性を主張しました。しかし、私の印象では、ダライラマ14世の紳士の言動から見て、大陸中国の対応は国家としての品格に欠けるものであったと思います。あのナチスドイツでも、オリンピックが開かれる前はユダヤ人に対する弾圧を少々緩めてさえ、オリンピックの遂行に取組んだのです。現在の中国はオリンピック前でも国内の弾圧を強めている感じですね。そこで始めた聖火リレーは、世界各国で抗議の嵐を受けるようになったのです。

同時に、チベット紛争と聖火リレーを機に、燎原の火のように広がった今回の中国人の民族主義の熱気も、中国政府による愛国心教育の成果でしょうか。ナチスドイツと相似しているように私は思えます。

### 中国政府がチベットに拘る理由

私は二つあると思っています。チベットに豊富な**鉱物資源**と**綺麗な水**があるからです。

2006年7月1日に「青蔵鉄道」(全長1956キロ)が全線開通しています。「チベット自治区」ラサと青海省のゴルムド区間1142キロを結び、海拔4000メートルを超える区間が960キロに達する世界最高高度の鉄道です。中国政府は262億人民元(約4500億円)を投入して、高山病と極寒の中で多大な犠牲者、負傷者を出しながらも青蔵鉄道を開通させたようです。

鉄道沿線では、銅、鉄、亜鉛などの豊富な鉱物資源が発見されており、ダライラマ14世は、節度がない開発により、ヒマラヤ山脈地区の生態環境が深刻な破壊に遭うことを招くと指摘しています。世界の鉱山開発は必ず、深刻な鉱害問題をもたらしてきています。環境問題認識の低い、技術も高くない中国がチベットで鉱山開発を本格的に乗り出したらどうなるでしょうか。

### 水問題

中国南部を流れる長江の源流はチベットのあるヒマラヤ山脈に端を発しています。1年半ほど前に中国に詳しい方から中国でのベストセラーの一つは、「チベットの水が中国を救う」よう本であると伺ったことがあります。今もその必要性があることがインターネットで確かめられました。海まで水が届かなくなった黄河、長江は黄河の15倍も水量がありながら、最近整備した巨大三峡ダムの水は、汚染された水が流れ込み、飲料水、農業用水に使えないという情報があります。この事態に中国政府は、チベットの清流に目を付けたのです。青蔵鉄道の建設もその一環でしょう。しかし鉱山開発で清流も汚せば、どういうことになるか。何がともあれ、中国政府はチベットをこの二つの理由から手中に収めておきたいと私は思っています。

今までの東シナ海ガス田の開発問題でも日本に対する態度を見ても、アフリカなど世界中でエネルギー資源確保に乗り出している中国は、したたかであり、心を許し切つてかかるべき相手ではないと思います。先の大戦で迷惑を掛けたとの気持ちからか、中国に低姿勢過ぎる態度で接する日本人が多いように思えます。私は疑問に考えている一人です。

### 四川大地震

こういう状況の中で、5月12日14時28分(CST時間)四川大地震が発生しました。

5月24日温家宝首相は8万人以上の犠牲者の可能性があると言っています。最近のニュースによれば、避難者540万人、被災者は4,550万人以上であるとのこと。亡くなられた方には謹んで冥福をお祈りし、二次災害を防ぎ、被災された方々には一日も早く復旧されることを希望するものです。

しかし客観的に見て、天災ではあるが、人災的要素(おから工事、汚職による手抜き工事など；中国の建築の最高権威 夏 一帆総工師弁)も強いようです。現実に学校の倒壊現場の映像を見ますと鉄筋も細くて少なく、手で砕けるようなコンクリートを犠牲児童の親が示していました。

中国では伝統的に「天災は天子の徳が無くなった時に発生する」という思想があると言います。天災を防ぐのも天子の役割であるとの考えであります。今の天子は胡錦濤国家主席でありましょうか。歴代王朝と異なる共産党の天下と言えども、中国の何千年の考えはそう簡単に消え去るものではないでしょう。

四川大地震で被害が広がるに連れ、世界から報道陣をある程度入れ、人民の不満、政府批判をも報道するようになりました。日本救援隊に温家宝首相が直々に謝意を表しています。中国の変化は本物なのか、一時期のものなのか注目したいところです。

以上 36年毎の3回のオリンピックがいずれもがエネルギー・資源問題、食料問題、環境問題のいずれかに関わっているという視点で書かせて頂きました。

長い文章にお付き合い有難うございました。

以上